

最終報告（案）について

平成29年12月19日
東京都総務局総合防災部

1. 報告書（案）の構成

1 はじめに

2 現状と問題点

(1) 防災に対する女性の意識と取組

(2) 東京都における防災の講習会やセミナーへの女性の参加率

3 人材育成の方向性

(1) 基本的な考え方

(2) 目指す人材像

(3) 人材育成事業のターゲット

(4) 今後の実施事業

4 人材育成カリキュラム

(1) ウーマンセミナー

(2) 防災コーディネーター育成研修会

5 今後の取組に向けた課題

6 参考資料

2.現状と問題点

- ◆ **防災に対する女性の意識と取組**
 - 「防災」という言葉に対して女性が抱いているイメージ
 - 防災に関する備え
 - 過去の震災を経験して感じたこと
- ◆ **東京都における防災の講習会やセミナーへの女性の参加率**

3.人材育成の方向性

◆ 基本的な考え方

- 災害時に「**その場**」で活躍できる**人材**を育成する
- 平常時においても、被害軽減のための**日常の備え**に役割が果たせる**人材**を育成する

◆ 目指す人材像

- **自らの身を守るために必要な知識**を身につけている
- **身につけた知識に基づき、適切な行動**をとることができる
- **周囲の人を牽引するコミュニケーション能力**を身につけている

3.人材育成の方向性

◆ 人材育成事業のターゲット

- 昼間人口が多いという東京の地域特性を踏まえ、**当面は「職場」と「地域生活」という2つの場面を切り口とした人材育成事業を実施する。**

◆ 今後の実施事業

- 人材の裾野を広げるための事業（基礎編＝ウーマンセミナー）とリーダー的人材を育成する事業（応用編＝防災コーディネーター育成研修会）の**2段階に分けて事業を実施する。**

4.人材育成カリキュラム

◆ ウーマンセミナー

(目 的)

- 防災の知識がない女性に、職場や地域にいる時に災害が起きた場合、自分の身に何が起きるのか、どうやって身を守るのかを学んでもらう。

(実施時間例)

- 職場編・・・平日夜間 19時30分～21時(90分程度を想定)
- 地域生活編・・・休日昼間 14時～16時(120分程度を想定)

(実施場所)

- 職場編・・・協力企業内オフィス、多くの女性が働いており、参加がしやすい場所
- 地域生活編・・・地域の公民館等、都有施設内会議場 等

4.人材育成カリキュラム

◆ ウーマンセミナーで学ぶ知識

I セミナーの導入

<女性が防災を学ぶことの重要性について理解する>

- (1) 防災分野における女性の力の必要性
- (2) 自分の身に起こりうること

II 災害発生直後に関する知識

<もし災害が発生したらどう行動すべきか、自分の命を守るために必要な知識を学ぶ>

- (1) 身の安全を確保する
- (2) 避難行動
- (3) 会社で帰宅困難者になってしまった場合
- (4) 外出先で帰宅困難者になってしまった場合

4.人材育成カリキュラム

Ⅲ 避難生活期に関する知識

<災害発生後3日目以降の生活で必要となる知識と適切な行動を学ぶ>

- (1) 避難所での生活の場合
- (2) 自宅に留まる場合

Ⅳ 生活再建期に関する知識

<災害発生後、生活再建に踏み出すために必要となる知識について学ぶ>

生活再建のモデルケースを基に、罹災証明書の仕組みと支援策を学ぶ

Ⅴ 事前に行うべき対策

<災害が起きてから後悔しないよう、今できる備えを学び、講習受講後の実践を促す>

- (1) 発災直後に役立つ対策
- (2) 避難生活期に役立つ対策

4.人材育成カリキュラム

◆ 防災コーディネーター育成研修会

(目 的)

- 災害が起きた場合に、自分の身だけでなく、職場や地域に何が起きるかを理解し、的確な対応を取ることができる人材を育てる。

(実施時間)

- 職場編・・・休日複数日(2日程度)
※平日夜間に実施する場合は、短時間に区切り、複数日程で実施)
- 地域生活編・・・休日複数日(2日程度)

(実施場所)

- 職場編・・・協力企業内オフィス、多くの女性が働いており、参加がしやすい場所
- 地域生活編・・・地域の公民館等、都有施設内会議場 等

4.人材育成カリキュラム

◆ 防災コーディネーター育成研修会で身につける内容

I はじめに

＜災害時における共助の重要性と女性防災人材の必要性について理解する＞

- (1) 災害時における共助の重要性
- (2) 女性防災人材の必要性

II 災害時に地域で起こること

＜災害時の避難生活は様々であり、地域の中には配慮が必要な人もいるということを知る＞

災害時には、避難所での避難生活、自宅での避難生活、あるいは避難所での生活ができず、やむを得ず自宅で避難生活を送る等、様々な避難生活の形態があることを知り、その中には配慮が必要な人もいることを理解する。

4.人材育成カリキュラム

Ⅲ 地域における助け合い

<災害時に避難所等において起こりうる様々な問題の解決方法を考える>

- (1) 避難所運営の知識
- (2) 多様な避難者への配慮
- (3) 避難所での防犯
- (4) 避難所での衛生管理
- (5) 避難者の健康維持
- (6) 物資の配布
- (7) 固定的な性別役割の解消
- (8) 避難所で起きるその他の問題
- (9) 在宅避難者の支援について

4.人材育成カリキュラム

Ⅳ 災害時に職場で起こること

<災害が発生した際の職場における行動の原則を知る>

- (1) 従業員や利用客の安全確保
- (2) 一斉帰宅の抑制

Ⅴ 職場における助け合い

<災害時に職場等において起こりうる様々な問題の解決方法を考える>

- (1) 会社内に3日間留まる
- (2) 帰宅困難者を受け入れる
- (3) 仕事と家庭の両立

4.人材育成カリキュラム

VI 改善に向けてできることを知る

<災害時の様々なニーズを解決するために必要な能力を身につける>

- (1) コミュニケーションの取り方を知る
- (2) 災害時に声を上げにくい人がいることを知る
- (3) 男女共同参画の視点を防災に

5. 今後の取組に向けた課題

<事業実施における課題>

- (1) 区市町村との連携
- (2) 企業等との連携

<受講者の活躍に向けた課題>

- (1) 受講者へのフォローアップ
- (2) 地域社会や男性リーダーの理解

<事業の将来的な展望にあたっての課題>

- (1) 内容の事後検証
- (2) 講師養成の必要性
- (3) その他